

式 辞

町中を歩くと、あちらこちらに、可愛らしい雛人形が飾られ、春の訪れを感じる季節となりました。本日ここに、ご来賓の方々にご臨席を賜り、第五十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びとするところであります。本校職員を代表して、厚くお礼申し上げます。

卒業される五百七十七名のみなさん、卒業おめでとうございます。平成から令和となり、歴史的にも大きな節目となった一年でありました。この年に卒業される皆さんとの思い出は、何ととっても私自身が校長に就任した年に入学された学年であり、共に過ごした三年間であったことです。入学式において横山流世(はやせ)さんの誓いの言葉から高校生活がスタートしました。そして、今日、卒業証書をお渡しできることを大変うれしく思います。

この三年間、校長として、建学の精神について日々考えてきました。初代理事長稲置繁男先生の「学校は人づくりをするところ。世の中に出ても決して恥ずかしくないような、礼節をわきまえた、人間らしい人をつくるところである。」の言葉をじっくりと考えて来ました。建学の精神にある、誠実の言葉と共に、考えれば考えるほど、奥深く、大切なことであると実感しました。土壇場において、窮地に追いやられた時において、人は何を考え、行動すればよいのか、と考えました。誠実な心を持つことこそ、判断に迫られた時に、備えていなければならないことであると思います。誠実な心とは、自分の心に裏表がないこと、中と外が一致していることであると思います。

特に、この一年の中で、皆さんから、誠実な心とは何なのかを改めて教えてもらいました。四月、野球部の皆さんが一生懸命に、自分たちの力で、幾度となくミーティングを重ね、自分達のチームを作り上げていったこと。日々の行

動において、自然な姿で行うゴミ拾いや、爽やかな挨拶、何よりも、甲子園決勝戦後の閉会式での、本当にすがすがしい行進の姿に、心から感激し、身体が震えました。また、全校集会で校長と一緒に草むしりをしよう、と声を掛けたところ、沢山の生徒さんが集まり、共に汗を流してくれたこと。嬉しかったです。サッカー選手権大会決勝で惜敗した後日、悔しさをこらえながらも、グラウンドで仲間達との最後のプレーを楽しむ姿に、三年生の強い絆を感じました。また、休みの日も登校しエントランスや教室で勉強する姿、毎日遅くまで黙々と学習に取り組む皆さんの姿をこの目で見てきました。その一つ一つの行動が誠実の表れであったと感じております。

「人の一生は、重荷を背負うて、遠き道に行くが如し」という言葉があります。何事においても誠実に生きるという信念を持ち、苦しい時、判断を迫られた時、誠実に生きるということを思い出してください。必ずその判断が皆さんを正しい方向へ導いてくれるものと信じております。

生きる、という言葉を使った歌に「生きてゆくことの意味、問いかけるそのたびに」という言葉で始まる「竹内まりや」さんの「いのちの歌」があります。その歌詞はこう続きます。この星の片隅で、めぐり会えた奇跡は、どんな宝石よりも、たいせつな宝物、泣きたい日もある、絶望に嘆く日も、そんな時、そばにいて寄り添うあなたの影、とあります。この星の片隅を、星稜高校としたとき、その影とは、友達であり、先生であり、何よりも保護者の方々であると思います。皆さんはこれまでの人生の中で、生きてゆくことの意味をどう考えてこられたでしょうか。その歌は最後にこう続きます。本当に大事なものは、隠れて見えない、ささやかすぎる、日々の中に、かけがえない、喜びがある、いつかは誰でも、この星にさよならをする時が来るけれど、命は継がれてゆく、生まれてきたこと、育ててもらえたこと、出会ったこと、笑ったこと、そのすべてにありがとう、この命にありがとう。この、ありがとうという感謝の言葉を、どんな時も忘れずに、大切にしましょう。それが、誠実に生きる時に必ず

役に立ちます。このことを改めて教えてくれた、皆さん、本当にありがとうございます。

本来ならばこの会場に多くの保護者の方々にご参列していただく予定でありました。卒業生の皆さんは、もう十分に保護者の方々への感謝の心を持たれていることと思います。約十八年間、皆さんの成長を支えてこられた日々、楽しいことも、苦しく辛いことも数多くあったことと思います。家に帰り、卒業証書をもって、感謝の言葉をお伝えください。

卒業生の皆さん、新しいステージの幕開けです。校歌にある「黎明」の如く、世界へ羽ばたく皆さんの、益々のご活躍を祈念し、式辞といたします。

令和二年三月三日

星稜高等学校 校長 鍋谷 正二

保護者の皆様には、お子様のご卒業、改めてお祝い申し上げます。子供の成長こそ、親が一番に望むこと、私たち教職員もその成長を今ここに見届けることができたことに感激しております。保護者の皆様には、これまで、本校の方針をご理解いただき、ご支援ご協力を賜りましたことに、感謝を申し上げます。ありがとうございました。